

1995年度セラミックス産業界の動き

総論

1. 需要動向と需要構成

1995年は前半は景気の回復が期待されながら、ほとんど改善されず、後半になってようやく回復の気ざしが見え始めた。

1995年の貿易収支は、円ベースでは12兆3,445億

円の黒字で、黒字幅は前年に比べて2兆3,900億円の減少となっているが、円高の進行で、ドルベースでは逆に87億ドルの増加である。国際的に見ると日本の貿易収支は全く改善されず、1994年並みの1,440億ドルの黒字を記録した。

1995年の我が国の鉱工業生産指数は、1990年を100とすると、1994年の92.0から95.1にまで回復し、1994年に比べて3.1%の増加となっている。

表1 製造品の出荷量、出荷額

	1993年	1994年	1995年	単 位	対前年比(%)	
板 ガ ラ ス	3 362	3 294	3 250	万換算箱	98.7	
ガ ラ ス 製 品	551,996	585,303	575,159	百万円	98.3	
ガ ラ ス 瓶 ^(4),5)	2 159	2 225	2 043	千 t	91.8	
ガ ラ ス 織 維 ⁽³⁾	522	586	608	千 t	103.8	
光 学 ガ ラ ス ⁽⁵⁾	8 907	10 390	11 685	t	112.5	
陶 磁 器 ^(1),3)	559,585	543,807	529,737	百万円	97.4	
耐 火 物 ^(1),3)	1 496	1 551	1 537	千 t	99.1	
セ メ ン ト ^(1),3),4),5)	94 886	97 631	97 496	千 t	99.9	
セラミックパイプ(陶管) ^(1),3)	105	104	92	千 t	88.5	
人 造 研 削 材 ⁽³⁾	91.7	90.6	83.9	千 t	92.6	
黒 鉛 る つ ぼ ^(3),4),5)	3 576	3 765	3 696	t	95.0	
ダイヤモンド及びcBN工具 ⁽¹⁾	91,223	91,811	96,144	百万円	105.0	
水 晶 デ バ イ ス ^(1),3)	170,100	200,000	193,000	百万円	96.5	
マグネシアクリンカー ⁽⁵⁾	202.4	182.0	190.5	千 t	104.7	
石 灰 ⁽¹⁾	200 451	202 488	201 089	千 t	99.3	
ド ロ マ イ ト	5 129	4 148	3 978	千 t	95.9	
焼 き セ ッ コ ウ ^(1),3),5)	81 755	79 877	73 658	t	92.2	
化 学 セ ッ コ ウ ^(1),3),5)	5 045	5 308	5 508	CaSO ₄ ・ 2 H ₂ O 千 t	103.8	
リ ン 酸 セ ッ コ ウ ^(1),3),5)	1 309	1 229	1 242		101.1	
ALC(軽量気泡コンクリート) ⁽³⁾	3 174	3 148	3 275	千 m ³	104.0	
ALA(人工軽量骨材) ⁽³⁾	912	769	796	千 m ³	103.5	
石 綿 製 品 ^(1),4),5)	29.5	24.9	21.6	千 t	86.7	
ロ ッ ク ウ ー ル ⁽³⁾	408	356	367	千 t	103.0	
赤 煉 瓦	68 869	66 238	62 860	千個	94.9	
珽 瑯	47,882	41,470	37,794	百万円	91.1	
セ ッ コ ウ ボ ー ド ⁽³⁾	578	596	613	百万 m ²	102.9	
光 ファイバ ^(1),3),5)	141,867	147,619	140,876	百万円	95.4	
電 子 部 品 ^(1),3),4),5)	32,929	32,001	33,677	億円	105.2	
無機顔料	酸化チタン ⁽³⁾	244	248	237	千 t	96.0
	酸化第二鉄 ⁽³⁾	170	191	190	千 t	99.2
	亜鉛華 ⁽³⁾	71 496	74 125	75 362	t	101.7
	ケイ酸ソーダ ⁽³⁾	843	847	910	千 t	107.4
ファインセラミックス部材 ^(1),4),5)	12,159	13,359	14,257	億円	117.3	
電子機器用セラミックス ^(1),3),4),5)	2,585	2,853	2,989	億円	104.8	
炭 素 織 維	4 242	5 339	5 914	t	110.8	
ゼ オ ラ イ ト ^(1),3)	110 650	104 549	87 363	t	83.6	
ケ イ 砂 ^(2),5)	5 774	5 876	5 812	千 t	98.9	
粘 土 瓦 ^(4),5)	997.8	1,069.1	906.3	億円	84.8	

注：1)生産量、2)需要量、3)年度、4)1993年の数字が修正されている、5)1994年の数字が修正されている。

表1は、セラミックス製品の出荷量、出荷額（一部の業種については、生産量もしくは需要量）を整理したものである。

表1の中で、ガラス瓶、セメント、黒鉛るつば、石綿製品、電子部品、ファインセラミックス部材、電子機器用セラミックス、粘土瓦は1993年、1994年の数値が修正されており、光学ガラス、マグネシアクリンカー、焼きセッコウ、化学セッコウ、リン酸セッコウ、光ファイバーは1994年の数値が修正されている。

出荷量あるいは出荷額（一部の業種では生産量あるいは需要量）が対前年比で10%以上の伸びを示した業種は光学ガラス（12.5%増）、ファインセラミックス部材（17.3%増）、炭素繊維（10.8%増）の3種であるが、1994年の7業種に比べて減少している。

対前年比で5%以上（同10%未満）の伸びを示した業種はダイヤモンド及びcBN工具（5.0%増）、電子部品（5.2%増）、ケイ酸ソーダ（7.4%増）、の3業種で、1995年は5%以上の伸びを示した業種は合わせて6業種となり、1994年の10業種に比べて減少している。

このほかにも、ガラス繊維（3.8%増）、マグネシアクリンカー（4.7%増）、化学セッコウ（3.8%増）、リン酸セッコウ（1.1%増）、ALC（4.0%増）、ALA（3.5%増）、ロックウール（3.0%増）、セッコウボード（2.9%増）、亜鉛華（1.7%増）、電子機器用セラミックス（4.8%増）、などが前年の実績を上回っており、1995年は前年の実績を上回った業種は合わせて16業種となったが、1994年の21業種には及ばなかった。

一方、出荷量あるいは出荷額（一部の業種では生産量あるいは需要量）が前年を下回った業種は、板ガラス（1.3%減）、ガラス製品（1.7%減）、ガラス瓶（8.2%減）、陶磁器（2.6%減）、耐火物（0.9%減）、セメント（0.1%減）、セラミックパイプ（11.5%減）、人造研削材（7.4%減）、水晶デバイス（3.5%減）、石灰（0.7%減）、ドロマイト（4.1%減）、焼きセッコウ（7.8%減）、石綿製品（13.3%減）、赤煉瓦（5.1%減）、珪瑯（8.9%減）、光ファイバー（4.6%減）、酸化チタン（4.0%減）、酸化第二鉄（0.8%減）、ゼオライト（16.4%減）、ケイ砂（1.1%減）、粘土瓦（15.2%減）、など22業種に達しており、前年の実績を上回った16業種を大幅に上回っている。

このように、1995年の我が国のセラミックス業界は、全体としては1994年をやや下回る実績となり、1993年から1994年にかけて見せた回復傾向が小休止した形となっている。

中でも板ガラス、セラミックパイプ、人造研削材、ドロマイト、焼きセッコウ、珪瑯、ゼオライトなどは、

ここ数年減少を続けている。

以下にセラミックス製品の主要な需要産業の生産動向をレビューする。

エレクトロニクス

家電製品関連は、セパレート形エアコンの生産台数が1994年の750万4千台から1995年は926万3千台と対前年比で23.4%増と2年続きで大幅な増加となり、ピーク時であった1991年の915万3千台をのぐ生産台数である。電子レンジは317万4千台で前年並み、電気洗濯機は487万6千台で3.3%の減少、電気掃除機は659万5千台で3.8%の増加、電気冷蔵庫は501万3千台で1.2%の増加である。

VTRは1265万5千台で、17.8%の大幅な減少であるが、ビデオディスクプレーヤーは259万4千台で、ほぼ前年並み、ビデオカメラは865万8千台で8.3%の増加である。

オーディオ製品は、デジタルオーディオディスクプレーヤーが対前年比6.6%の増加であるが、ステレオセットは18%の減少、ラジカセは176万5千台で、24.8%の大幅な減少、カーステレオは1745万3千台で、ほぼ前年並みとなっている。磁気テープは2億1075万m²で、対前年比5.3%の減少である。

通信機器は電話機が1278万5千台で、対前年比27.5%の大幅な減少であるが、携帯電話が956万2千台で、対前年比90.6%増とほぼ倍に増加した。ポタン電話装置は409万2千台で、7.8%の減少、ファクシミリは563万9千台で、対前年比6.6%の増加となっている。

事務機器は、1994年の2017万1千台から1995年は556万5千台と、前年のほぼ4分の1に減少している。複写機も1994年の2144万3千台から2050万8千台（対前年比4.4%減）に減少しており、日本語ワープロも1994年の1989万6千台から、1995年は1823万2千台（対前年比8.4%減）に減少している。

コンピューター関連は、パソコンが1994年の1165万2千台から、1995年は1480万8千台（対前年比27.1%増）と大幅な増加である。これに対してCPUは1994年の1190万3千台から、1995年は1149万8千台（対前年比3.4%減）とわずかな減少である。外部記憶装置は1994年の1191万1千台から、1995年は981万3千台（対前年比17.6%減）に減少しているが、入出力装置は、1994年の942万台から、1995年は1139万7千台（対前年比21.0%増）と大幅に増加している。

このため、電子機器用セラミックスが1994年の2.853億円から、1995年は2.989億円と対前年比で4.8%の増加、電子部品も1994年の3兆2,001億円から、1995年は3兆3,677億円（対前年比5.2%増）

に増加している。

これに対して、光ファイバーは1994年の1.476億1,900万円から、1995年は1.408億7,600万円(対前年比4.6%減)に減少している。

鉄鋼・非鉄金属

鉄鋼は粗鋼の生産量が1994年の9829万5千tから、1995年は1億164万t(対前年比3.4%増)と1991年以来の1億tを回復している。銑鉄は1994年の7377万6千tから、1995年は7490万5千t(対前年比1.5%増)に増加、鋼半製品も1994年の9313万8千tから、1995年は9663万1千t(対前年比3.8%増)に増加している。普通鋼熱間圧延鋼材も1994年の7663万1千tから、1995年は7944万9千t(対前年比3.7%増)に増加、熱間鋼管も1994年の6751万6千tから、1995年は6911万7千t(対前年比2.4%増)に増加している。

非鉄金属製品は電気銅が1994年の111万9200tから、1995年は118万8千t(対前年比6.1%増)に増加、亜鉛は1994年の66万5500tから、1995年は3600t(対前年比0.3%減)とわずかな減少、電気銀は1994年の2020tから、1995年は2057t(対前年比1.8%増)に増加している。アルミ加工品は圧延製品が、1994年の235万5100tから、1995年は241万1300t(対前年比2.4%増)に増加、アルミはくは1994年の13万6200tから、1995年は14万600t(対前年比3.2%増)に増加している。

この結果、マグネシアクリンカーは1994年の18万2千tから、1995年は19万500t(対前年比4.7%増)に増加したが、耐火物は1994年の155万1千tから、1995年は153万7千t(対前年比0.9%減)とわずかな減少となっている。ドロマイトも1994年の414万8千tから、1995年は397万8千t(対前年比4.1%減)に減少している。

一般機械

一般機械のうち、はん用内燃機関は1994年の6150万8千PSから、1995年は6749万1千PS(対前年比4.6%増)に増加、水管ボイラーは1994年の25306t/hから、1995年は20132t/h(対前年比20.4%減)と大幅な減少である。一般用蒸気タービンは1994年の812万1千kWから、1995年は758万8千kW(対前年比6.6%減)に減少している。

化学機械は対前年比で3.5%の減少であるが、印刷機械は1994年の3823台から、1995年は4145台(対前年比8.4%増)に増加、食料品加工機械は1994年の11万3468台から、1995年は11万5946台(対前年比2.2%増)に増加、金属工作機械も1994年の対前年比で29.3%の大幅な増加である。

産業用ロボットは、プレイバックロボットが1994

年の15488台から、1995年は20233台(対前年比30.6%増)と大幅な増加となっており、NCロボットも1994年の8016台から、1995年は9531台(対前年比18.9%増)と大幅な増加である。

これら以外では、ポンプ(対前年比5.1%減)が前年実績を下回ったが、コンプレッサー(対前年比9.6%増)、クレーン(対前年比11.1%増)、チェーンブロック(対前年比12.9%増)、コンベアー(対前年比20.3%増)、エレベーター(対前年比7.3%増)などは、いずれも前年の実績を上回っている。

電機

標準三相モーターは1994年の137万4千台から、1995年は148万9千台(対前年比8.4%増)と大幅な増加である。非標準三相モーターも1994年の1711万4千kWから、1995年は2178万2千kW(対前年比27.3%増)と大幅な増加である。

これら以外では、一般用タービン発電機が1241万7千kVAで、対前年比30.7%増、一般用エンジン発電機が523万kVAで、対前年比24.9%増、非標準変圧器が1994年の6382万4千kVAから、1995年は7495万3千kVA(対前年比17.4%増)と増加している。電力変換装置は、2,358億円で、対前年比7.8%増、開閉制御装置は9,576億円で、対前年比2.4%減、電気溶接機は14万5374台で、対前年比0.7%減である。

輸送機械

普通乗用車は256万9500台で、対前年比0.5%減とほぼ前年並みの実績である。小型乗用車は412万9800台で、対前年比6.4%の減少である。大型バスも1万2814台で、対前年比12.2%の大幅減少である。小型バスも34452台で、対前年比0.2%減、軽トラックも80万4300台で、対前年比1.3%減、ガソリン普通トラックも23万2500台で、対前年比46.1%の大幅減である。

これに対して、軽乗用車は91万6200台で、対前年比13.6%の大幅な増加である。小型トラックも90万9300台で、対前年比0.5%増、ディーゼル普通トラックは57万3200台で、対前年比6.5%増となっている。

建設・公共・住宅等

1995年の建設工事受注額は19兆7,556億円で、1994年の受注額19兆341億円に対して、3.8%の増加である。

一方、公共工事着工額は1994年の17兆5,556億円に対して、1995年は19兆2,165億円(対前年比9.5%増)と大幅な増加である。

新設住宅着工戸数は1994年の157万252戸から、1995年は147万330戸と、対前年比で6.4%の大幅

な減少である。

このため、これら建設・公共・住宅等に使用されるガラス繊維が、対前年比で3.8%の増加である。セッコウボードは、対前年比で2.9%の増加である。

また、ALC（軽量気泡コンクリート）は対前年比で4%増、ALA（人工軽量骨材）は対前年比で3.5%の増加である。

2. 輸出入動向

表2は、1992年から1994年までのセラミックス製品の輸出品又は輸出額を整理したもので、表3は同期間のセラミックス製品の輸入品又は輸入額を整理したものである。

輸出実績が前年を上回った業種は、1994年の場合、

ガラス瓶、ガラス繊維、セメント、黒鉛るつぼ、ダイヤモンド工具、酸化チタン、酸化鉄、亜鉛華、ケイ酸ソーダ、溶融アルミナ人造研削材、炭素繊維など11業種であったが、1995年はガラス繊維（11.9%増）、陶磁器（10.4%増）、耐火物（15.9%増）、ダイヤモンド工具（6.3%増）、マグネシアクリンカー（6.4%増）、珪瑯（56.1%増）、酸化チタン（4.0%増）、酸化第二鉄（21.6%増）、亜鉛華（20.9%増）、ケイ酸ソーダ（52.4%増）、溶融アルミナ人造研削材（4.7%増）、炭化ケイ素人造研削材（70.2%増）、光ファイバー（25.2%増）、炭素繊維（16.4%増）など14業種に増加している。

一方、ガラス製品、ガラス瓶、セメント、黒鉛るつ

表2 製品別輸出品

	1993年	1994年	1995年	単 位	対前年比(%)	
ガラス製品	13,475	11,534	10,694	百万円	92.7	
ガラス瓶	896	2,082	921	t	44.2	
ガラス繊維	33.6	37.9	42.4	千t	111.9	
陶磁器	135,614	131,901	145,577	百万円	110.4	
耐火物	92	88	102	千t	115.9	
セメント	13,697	14,995	13,389	千t	89.3	
黒鉛るつぼ	767	925	887	t	95.9	
ダイヤモンド工具	11,110	11,503	12,230	百万円	106.3	
マグネシアクリンカー	50	47	50	千t	106.4	
石綿製品	12,305	12,199	8,705	百万円	71.4	
珪 礬	492	358	559	百万円	156.1	
酸化チタン	62,414	64,053	66,625	t	104.0	
酸化第二鉄	19,527	22,276	27,089	t	121.6	
亜鉛華	1,504	1,582	1,913	t	120.9	
ケイ酸ソーダ	140	143	218	t	152.4	
人造研削材	溶融アルミナ	27,545	27,800	29,100	t	104.7
	炭化ケイ素	8,730	8,400	14,300	t	170.2
光ファイバー	232	214	68	千km・コア	125.2	
炭素繊維	2,545	3,758	4,374	t	116.4	

表3 製品別輸入品

	1993年	1994年	1995年	単 位	対前年比(%)	
ガラス製品	20,491	25,236	25,142	百万円	99.6	
陶磁器	31,329	36,379	42,142	百万円	115.8	
耐火物	54	85	126	千t	148.2	
ダイヤモンド工具	1,613	1,858	2,314	百万円	124.5	
マグネシアクリンカー	397	514	499	千t	97.1	
セッコウ	4,038	3,930	3,784	千t	96.3	
石綿	210	200	191	千t	95.5	
人造研削材	溶融アルミナ	98,406	107,100	130,400	t	121.7
	炭化ケイ素	48,252	60,400	65,800	t	109.0
セメント	929	666	651	千t	97.7	
ガラス瓶	9,475	13,577	-	t	-	
ケイ砂	1,890	1,932	2,076	千t	107.5	
珪 礬	1,113	1,276	1,691	百万円	132.5	

は、石綿製品などの5業種は輸出実績が前年を下回った。

輸入実績が前年を上回った業種は、1994年の場合、ガラス製品、陶磁器、耐火物、ダイヤモンド工具、マグネシアクリンカー、溶融アルミナ造研削材、炭化ケイ素人造研削材、ガラス瓶、珐瑯などの9業種であったが、1995年は陶磁器(15.8%増)、耐火物(48.2%増)、ダイヤモンド工具(24.5%増)、溶融アルミナ造研削材(21.7%増)、炭化ケイ素人造研削材(9.0%増)、ケイ砂(7.5%増)、珐瑯(32.5%増)などの7業種に減少した。

一方、ガラス製品、マグネシアクリンカー、セッコウ、石綿、セメントなどの5業種は1995年の輸入実績が前年を下回った。

3. 業界構造

表4は、製造業における製造品出荷額、事業所数、従業員数を整理したものである。

1994年の窯業・土石業の製造品出荷額は10兆3,180億円(対前年比0.5%増)で、わずかではあるが前年実績を上回った。

製造業計の製造品出荷額は299兆270億円で、対前年比3.9%の減少である。製造品出荷額が前年を上回った業種は、窯業・土石業以外には見当たらない。

特に減少率が大きかったのは繊維(対前年比32.2%減)、ゴム製品(対前年比10.2%減)、鉄鋼(対前年比9.1%減)、一般機械(対前年比7.1%減)、金属製品(対前年比6.6%減)、精密機器(対前年比6.2%減)などである。

1994年の窯業・土石業の事業所数は19326で、1993年に比べて839事業所の減少である。

製造業全体では、1993年の41万3670事業所から、1994年は38万2825事業所と30845事業所の減少である。

また、1994年の窯業・土石業の従業者数は43万3千人で、1993年の44万5千人に対して1万2千人の減少となっている。

製造業全体の従業者数も1993年の1088万5千人から、1994年は1041万6千人と46万9千人の減少となっている。1993年から1994年にかけても製造業の従業者数は大幅な減少となっている。

表5は、製造業における1事業所当たりの従業者数、出荷額及び従業者1人当たりの出荷額、付加価値額を整理したものである。

1994年の窯業・土石業の1事業所当たりの従業者数は22.4人で、1993年に比べて0.3人の増加である。製造業計でも27.2人と、1993年に比べて0.9人の増加である。

1994年の窯業・土石業の1事業所当たりの出荷額は5億3,390万円で、対前年比で4.9%の増加である。製造業計でも、1事業所当たりの出荷額は7億8,110万円で、1993年に比べて3.8%の増加である。

1994年の窯業・土石業の従業者1人当たりの出荷額も2,383万円で、1993年に比べて3.3%の増加である。製造業計でも、従業者1人当たりの出荷額は2,871万円で、1993年に比べて0.4%の増加である。

1994年の窯業・土石業の従業者1人当たりの付加

表4 製造業における出荷額、事業所数、従業者数の推移(従業者4人以上)

	製造品出荷額(十億円)			事業所数			従業者数(千人)		
	1992年	1993年	1994年	1992年	1993年	1994年	1992年	1993年	1994年
製造業計	329,521	311,199	299,027	415,112	413,670	382,825	11,157	10,885	10,416
食料品	35,548*	35,213*	34,648*	48,403*	49,379*	46,549*	1,245*	1,266*	1,236*
繊維	7,573	6,635	4,498	28,154	26,494	16,745	496	460	283
パルプ・紙・紙加工品	8,769	8,496	8,121	10,882	11,064	10,410	281	281	271
化学	24,169	23,260	22,519	5,340	5,340	5,160	415	413	398
石油・石炭	8,536	7,990	7,822	1,092	1,125	1,093	34	34	34
ゴム製品	3,738	3,445	3,094	5,566	5,485	4,330	171	166	148
窯業・土石	10,804	10,268	10,318	20,225	20,165	19,326	454	445	433
鉄鋼	16,588	14,932	13,574	6,205	6,194	5,830	331	322	308
非鉄金属	6,865	6,140	5,931	3,966	3,959	3,709	170	168	161
金属製品	19,805	18,732	17,488	49,413	50,281	46,214	850	854	813
一般機械	33,729	29,709	27,594	44,508	44,181	40,320	1,207	1,152	1,074
電気機器	54,565	52,103	51,928	35,091	33,937	31,389	1,927	1,845	1,773
輸送機器	49,426	47,065	44,652	15,177	15,287	14,226	974	957	937
精密機器	5,051	4,488	4,208	6,612	6,488	5,928	236	241	206
その他	44,355	42,723	42,632	134,478	134,291	131,596	2,366	2,281	2,341

*飲料・飼料・たばこを含む。

(通商産業省工業統計表産業編)

表5 製造業における1事業所当たりの従業者数, 出荷額, 従業者1人当たりの出荷額, 付加価値額の推移 (従業者4人以上)

	1事業所当たりの従業者数(人)			1事業所当たりの出荷額(百万円)			従業者1人当たりの出荷額(百万円)			従業者1人当たりの付加価値額(百万円)		
	1992年	1993年	1994年	1992年	1993年	1994年	1992年	1993年	1994年	1992年	1993年	1994年
製造業計	26.9	26.3	27.2	793.8	752.3	781.1	29.53	28.59	28.71	10.86	10.56	10.79
食料品	25.7*	25.6*	26.6*	734.4*	713.1*	744.3*	28.55*	27.81*	28.03*	9.61*	9.48*	9.70*
織	17.6	17.4	16.9	269.0	250.4	268.6	15.27	14.42	15.89	6.24	5.86	6.65
パルプ・紙 ・紙加工品	25.8	25.4	26.0	805.8	767.9	780.1	31.21	30.23	29.97	11.04	11.08	11.30
化学	77.7	77.3	77.1	4,526.0	4,355.8	4,364.1	58.24	56.32	56.58	28.50	27.87	28.59
石油・石炭	31.1	30.2	31.1	7,816.8	7,102.2	7,156.5	251.06	235.00	230.06	39.56	43.24	49.91
ゴム製品	30.7	30.3	34.2	671.6	628.1	714.5	21.86	20.75	20.91	9.96	9.51	9.95
窯業・土石	22.4	22.1	22.4	534.2	509.2	533.9	23.80	23.07	23.83	11.36	11.15	11.62
鉄鋼	53.3	52.0	52.8	2,673.3	2,415.6	2,328.3	50.11	46.37	44.07	17.65	15.87	15.09
非鉄金属	42.9	42.4	43.4	1,731.0	1,550.9	1,599.1	40.38	36.55	36.84	11.37	10.89	10.91
金属製品	17.2	17.0	17.6	400.8	372.5	378.4	23.30	21.93	21.51	10.33	9.71	9.53
一般機械	27.1	26.1	26.6	757.8	672.4	684.4	27.94	25.79	25.69	11.17	10.30	10.33
電気機器	54.9	54.4	56.5	1,555.0	1,535.3	1,654.3	28.32	28.24	29.29	9.91	9.76	10.37
輸送機器	64.2	62.6	65.9	3,256.6	3,078.8	3,138.8	50.75	49.18	47.65	12.69	12.54	12.41
精密機器	35.7	37.1	34.8	763.9	691.7	709.9	21.40	18.62	20.43	8.21	8.19	8.05

* 飲料・飼料・たばこを含む。

(通商産業省工業統計表産業編)

表6 窯業・土石業における出荷額, 事業所数, 従業者数の推移

	製造品出荷額(十億円)			事業所数			従業者数(千人)		
	1992年	1993年	1994年	1992年	1993年	1994年	1992年	1993年	1994年
窯業・土石計	10,804	10,268	10,318	20 225	20 165	19 326	454	445	433
板ガラス(製造業)	296	261	468	6	6	6	4.5	4.4	5.5
ガラス容器	255	242	251	79	77	80	8.5	8.3	8.3
理化学用・医療用ガラス器具	63	58	39	142	142	126	4.3	4.1	3.1
ガラス繊維	247	231	214	197	195	181	9.6	9.1	8.0
セメント	814	721	778	47	65	63	9.0	7.5	8.4
コンクリート製品	1,539	1,552	1,545	3 419	3 378	3 269	82.5	82.1	81.5
粘土瓦	161	169	168	800	792	742	11.2	11.3	11.1
陶管	8	8	6	33	32	30	0.7	0.7	0.6
食卓用・ちゅう房用陶磁器	246	224	232	1 841	1 784	1 912	29.5	27.7	27.8
電気用陶磁器	273	287	313	241	229	213	16.5	16.5	15.8
陶磁器製タイル	243	228	227	544	521	511	15.0	13.7	13.3
耐火物	351	339	317	272	265	257	14.9	14.5	13.5
炭素質電極	66	61	55	27	28	23	1.9	1.7	1.5
研磨材	198	183	180	310	309	296	10.1	9.9	10.0
うち研削砥石	85	74	72	149	151	144	5.0	4.8	4.9
人工骨材	25	23	23	28	28	27	0.7	0.7	0.7
珪瑯鉄器	55	47	41	55	52	48	2.3	2.1	1.9
石綿製品	63	49	36	111	101	93	3.6	3.2	1.9
セッコウ製品	149	142	139	180	178	169	3.5	3.6	3.6
石灰	165	160	155	164	160	160	4.8	4.6	4.6
その他	5,502	5,209	5,169	11 580	11 672	10 976	215.9	214.5	207.0

(通商産業省工業統計表産業編)

訂正 [研削砥石]の数値は, [研磨材]の数値に含まれるものであるが, 別の項目として, 加算してしまったために, 差引値である[その他]の数値に誤りが生じた。よって1992年及び1993年の[その他]の数値を訂正します。

表7 窯業・土石業における1事業所当たりの従業者数、出荷額、従業者1人当たりの出荷額、付加価値額の推移（従業者4人以上）

	1事業所当たりの従業者数(人)			1事業所当たりの出荷額(百万円)			従業者1人当たりの出荷額(百万円)			従業者1人当たりの付加価値額(百万円)		
	1992年	1993年	1994年	1992年	1993年	1994年	1992年	1993年	1994年	1992年	1993年	1994年
窯業・土石計	22.4	22.1	22.4	534.2	509.2	533.9	23.80	23.07	23.83	11.36	11.15	11.62
板ガラス	750.0	733.3	916.7	49,333.3	48,500.0	78,000.0	65.78	59.32	85.09	38.87	37.56	57.22
ガラス容器	107.6	107.8	103.8	3,227.8	3,142.9	3,137.5	30.00	29.16	30.24	16.44	16.57	17.76
理化学用・医療用ガラス器具	30.28	28.9	24.6	443.7	408.5	309.5	14.65	14.15	12.58	8.21	7.68	6.35
ガラス繊維	48.7	46.7	44.2	1,253.8	1,184.6	1,182.3	25.73	25.38	26.75	11.65	10.90	11.30
セメント	191.5	115.4	133.3	17,318.1	11,092.3	12,349.2	90.44	96.13	92.62	44.78	47.47	48.18
コンクリート製品	24.13	24.3	24.9	450.1	459.4	472.6	18.65	18.90	18.96	9.98	10.22	10.21
粘土瓦	14.0	14.3	15.0	201.3	213.4	226.4	14.38	14.96	15.14	8.29	8.79	8.83
陶管	21.2	21.9	20.0	242.4	250.0	200.0	11.43	11.43	10.00	7.57	6.78	7.05
食卓用・ちゅう房用陶磁器	16.0	15.5	14.5	133.6	125.6	121.3	8.34	8.09	8.35	5.24	5.04	5.25
電気用陶磁器	68.5	72.1	74.2	1,132.8	1,253.3	1,169.5	16.55	17.39	19.81	7.32	7.94	8.21
陶磁器製タイル	27.6	26.3	26.0	446.7	437.6	444.2	16.20	16.64	17.07	9.15	9.35	9.48
耐火物	54.8	54.7	52.5	1,290.4	1,279.2	1,233.5	23.56	23.38	23.48	9.94	10.51	10.10
炭素質電極	70.4	60.7	65.2	2,444.4	2,178.6	2,391.3	34.74	35.88	36.67	15.79	15.76	18.29
研磨材	32.6	32.0	33.8	638.7	592.2	608.1	19.60	18.48	18.00	10.56	9.56	10.92
研削砥石	33.6	31.8	34.0	570.5	490.1	500.0	17.00	15.42	14.69	9.58	8.33	8.88
人工骨材	25.0	25.0	25.9	892.9	821.4	851.9	35.71	32.86	32.86	20.14	19.32	18.62
珐瑯鉄器	41.8	40.4	39.6	1,000.0	903.8	854.2	23.91	22.38	21.58	8.22	8.13	7.76
石綿製品	32.4	31.7	20.4	567.6	485.1	387.1	17.50	15.31	18.95	6.58	6.25	7.44
セッコウ製品	19.4	20.2	21.3	827.8	797.8	822.5	42.57	39.44	38.61	18.29	17.13	15.83
石灰	29.3	28.8	28.8	1,006.1	1,000.0	968.8	34.38	34.78	33.70	14.81	14.95	14.48

(通商産業省工業統計表産業編)

価値額は1,162百万円で、対前年比で4.2%の増加である。製造業計でも、従業者1人当たりの付加価値額は1,079百万円で、1993年に比べて2.2%の増加である。

表6は、窯業・土石業の業種別の製造品出荷額、事業所数、従業者数を整理したものである。

1994年の窯業・土石業の出荷額は、対前年比で0.5%の増加である。業種別に見て、前年の実績を上回ったのは板ガラス(79.3%増)、ガラス容器(3.7%増)、セメント(7.9%増)、食卓用・ちゅう房用陶磁器(3.6%増)、電気用陶磁器(9.1%増)などである。

1994年の窯業・土石業の事業所数は839事業所の減少であったが、ガラス容器や食卓用・ちゅう房用陶磁器などでは事業所数が増加している。

また、1994年の窯業・土石業の従業者数は、対前年比で1万2千人の減少であったが、板ガラス、セメント、研磨材、研削砥石などでは逆に増加している。

表7は、業種別に見た窯業・土石業の1事業所当たりの従業者数、出荷額、従業者1人当たりの出荷額、付加価値額を整理したものである。

1994年の窯業・土石業の1事業所当たりの従業者数は、対前年比で0.3人の増加であったが、ガラス容器、理化学用ガラス器具、ガラス繊維、陶管、食卓用陶磁器、耐火物、珐瑯鉄器、石綿製品などは逆に減少している。

1994年の窯業・土石業の従業者1人当たりの出荷額は、4.9%の増加であったが、理化学用ガラス器具、陶管、珐瑯鉄器、石綿製品、石灰などは逆に減少している。

1994年の窯業・土石業の従業者1人当たりの出荷額は対前年比で3.3%の増加であったが、理化学用・医療用ガラス器具やセメント、陶管、研磨材、研削砥石、珐瑯鉄器、セッコウ製品、石灰などでは減少している。

1994年の窯業・土石業の従業者1人当たりの付加価値額は、対前年比で4.2%の増加であるが、理化学用・医療用ガラス器具、ガラス繊維、耐火物、人工骨材、珐瑯鉄器、石綿製品、セッコウ製品、石灰などでは逆に減少している。

(株)東京テクノ・トランスファ 石井 忠